

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援センター 伊予くじら		R8 年 1月 5日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			パート職員が多く、配置時間や勤務日数の調整が難しい。むらなく配置できるよう適切な人員を確保する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			不安定な子どもがクールダウンできる場所の設定（段ボールハウス、テントなど）を工夫する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			行事前など雑然としていることがあるため改善していきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		○	Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の計画通り活動が終わった後、反省会等で共有・振り返りをしている。その結果を取りまとめて次回の活動に生かすようにしている。	常勤職員が中心となっているが、パート職員とも共有できるよう工夫する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			管理者、児発管は、各自が必要な時に相談しやすい関係作りに努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価の項目を確認して、どのような対策が必要か検討をしている。	第三者評価を受講検討中。体制ができ次第第三者評価を実施する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		今年度は、外部研修の機会、多くの職員が参加していただく機会を持つよう努めた。	新しく入職される方がより多くの研修を受けていただけるようにする。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			子どもに関わる職員が、個々の事例を話し合う時間を増やす。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			様々な勤務体系の職員と情報共有ができるよう機会を持つ。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			チームの職員が共有してさらなる支援につなげたい
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			リーダーだけでなく、チーム全体、他のチームとも相談しやすい関係作りに努める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			パート職員への情報提供
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			パート職員が多い為、徹底できていない
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			チーム職員間で話し合う時刻を決める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		日々、子どもたちの活動を確認し、問題点などを担任の先生と共有をしている。	子どもたちの様子に応じて、見直しのタイミングや回数を変える。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○		今年は年間に4回の障がい児サービス事業所定例会、年6回の相談支援事業所定例会に参加している。	定例会の内容については、事業所同士が話しやすい方法を検討する。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		国・県・市・法人の研修会に参加している。また、他のセンターの研修会等も利用して情報収集を行っている。	愛媛県委託事業障がい児(者)療育支援事業の利用を検討してみる。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		愛媛県、伊予市開催の部会、会議について参加をしている。	
	31	(31は、事業所のみ回答)	/			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	併行通園児は地域の子どもたちとの交流を重ねている。	併行通園児については園での交流がスムーズにできるよう訪問を増やし、話し合いを進めていく。毎日通園児についても地域の施設での活動、園児との交流イベントを検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	今年度、親子遠足を実施。保護者参加の学習会も実施し、保護者が顔を合わせられる機会を持った。	保護者学習会の内容、きょうだいの交流について検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	ハッピーブレイスという地域広場へ掲示物の参加をしている。	地域の方との交流イベントについては今後情報を集め、実施できるよう努める。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎月の避難訓練とは別に、防犯訓練・地震訓練を行っている。訓練の時間帯を変えたりして、訓練を行っている。	職員の災害時連携や対応がしっかりとできるように見直しをしていきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		同上	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		看護師により服薬、感染症、てんかんの情報共有を朝礼・終礼で行っている。 また、必要な研修の受講もしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		入園前の保護者との話し合いで、情報を共有。また、アレルギー対応については、調理師・保育士とも共有し個別対応をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		毎年【安全計画】を作成。年度はじめの周知、玄関への配置をしている。	知らなかったと言われる方がいるので、マチコミ等も使って多くの人にみてもらえるように配慮していった。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		毎年【安全計画】を作成。年度はじめの周知、玄関への配置をしている。	知らなかったと言われる方がいるので、マチコミ等も使って多くの人にみてもらえるように配慮していった。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎日の終礼で、当日のヒヤリハットの共有を行い、さらに毎月1回職員会議にて前月の取りまとめを行い共有をしている。	ヒヤリハットの対応策について、再評価をしていくようにしていきたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		愛媛県・伊予市・事業所の訓練に参加している。参加職員が、その他の職員へ伝達を行っている。	事例検討会を施設で行い、虐待に対しての認識の共有をしっかりとしていきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現時点、拘束対応の子どもはいないが、該当する場合は、しっかりと保護者・関係者と協議をして児童発達支援計画に記載する。	